

平成二十四年度 秋号 山口県立青嶺高等学校

高 P T A だよ

「第六十二回全国高等学校 P T A 連合会大会（和歌山大会）」に参加して」

参加者 P T A 会長 福田 和司
P T A 副会長 安永 一男
P T A 顧問 池田 寛治

開催場所 和歌山県和歌山市

開催日 平成二十四年八月二十二～二十四日

二十三日：大会二日目（高校生アトラクション、開会式、表彰式、基調講演、分科会）

二十四日：大会一日目（分科会、閉会式）

第六十二回全国高等学校 P T A 連合会大会和歌山大会が、和をもって響きあえ！とつれもて広げる 共育の輪をテーマに、八月二十二日から二十四日までの三日間和歌山県和歌山市をメイン会場に、全国から九千人を超える P T A ・学校関係者が一堂に会し、盛大に開催されました。

私たちは、山口県公立高等学校 P T A 連合会の約三百名の参加者とともに、主会場である和歌山ビッグホーエルでの大会二日目の開会式より参加し、地元和歌山の高校生による吹奏楽、和太鼓のアトラクションや表彰式に参加後、初日のメインである宇宙航空研究開発機構教授の川口淳一朗氏の『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行、その七年間の歩み』と題する基調講演に参加いたしました。川口教授は、一九九六年から二〇一一年九月まで、小惑星探査機『はやぶさ』のプロジェクトマネージャーを務めており、はやぶさが実証した地球引力圏外の天体へ着陸し、往復して帰還した七年間の宇宙旅行を終え、試料回収カプセルも無事回収することにも成功したプロジェクトの中心人物であります。

この講演では、打ち上げから帰還までの七年間の飛行運用をふりかえり、数々のトラブルや困難な局面で得られた教訓についてユ一モアを交え、時には少年のようなまなざし

で紹介され、成果を次世代につなげる方法、新たな構想を立ち上げるのに必要な取り組み方について話をされました。

講演を通じて、年齢に関係なく人間が成長するために夢や目標を持つことの大切さとモチベーションを持って率先して取り組むことの大切さについて語られ、苦難を克服して夢や目標を実現することのすばらしさを再認識



することができた有意義な講演でありました。

翌日の大会二日目は、六会場に分かれ、分科会ごとのテーマに沿った事例発表が行われました。私たちが参加した第一分科会「学校教育と P T A ～社会性を身につけ「生きる力」を育む教育と P T A 活動～」では、四校の事例発表が行われました。それぞれの学校の特徴を生かした P T A 活動を通じて、子どもたちとともに親も成長すること、子ども・保護者・学校の相互の信頼関係の構築ができれば、子どもたちは自ずと「豊かな感性」や「生きる力」を育んでくれるなどの事例発表があり、今後の P T A 活動の参考となるものでありました。

今回の研修会で私たちは、P T A 活動のあり方について再確認することができたと思っております。大変厳しく先行き不透明な今日の社会ではありますが、無限の可能性を秘めた次世代の主役である子どもたちの将来に向けて、また、子どもたちが高い志を持って、自分の力を超えた存在に、自分自身を近づけていく大変貴重な高校の三年間を後方からそっとエールを送ることが出来る P T A 活動でありたいと感じました。

最後に行われた閉会式では、大会宣言の後、次期開催地である山口大会の実行委員長の挨拶を合図に山口県 P T A 関係参加者全員が吉田松陰先生の「志」の書に染め抜いた統一 T シャツ次期開催地 P R タオルを掲げての次期開催地アピールを行い、全ての日程が終了し閉会しました。短期間ではありましたが、充実した大会に参加ができ、各地の P T A 活動の良いところを学ぶことができ、今後の本校 P T A 活動に生かしていきたいと思っております。P T A の皆様、来年度はいよいよ山口県で第六十三回全国高等学校 P T A 連合会大会が開催されます。全国から参加される皆さんに、山口県らしい感動を与えられる大会になるよう皆様の積極的なご協力とご参加をお願いし、結びといたします。



「第五十四回中国四国高等学校 P T A 連合会大会（徳島大会）」に参加して」

参加者 P T A 会長 福田 和司
P T A 監事 末岡 竜夫

開催場所 徳島県徳島市

開催日 平成二十四年七月十三日

本年七月十三日に行われました標記大会に参加させていただくこととなり、四国徳島の地へ足を運んでまいり

ましたので、保護者の皆様に紙面をお借りして報告いたします。

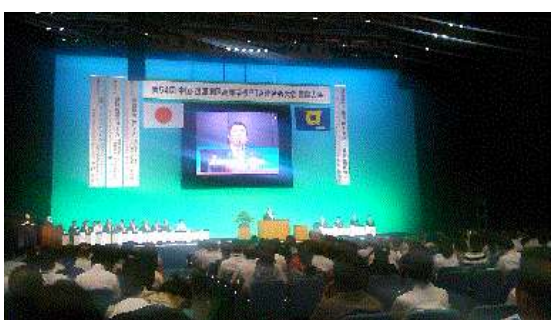
アクティとくしまという豪壮で隅々まで整備の行き届いた会場のすばらしさに驚きながらホールの一席に腰掛け、徳島県知事をはじめとする来賓の方々の歓迎のご挨拶を拝聴した後、早速 P T A 活動の研究発表が始まりました。

まずは、岡山県立倉敷工業高等学校 P T A による、生徒と教職員、学校と保護者の信頼関係に関する活動発表でした。これらの信頼関係がうまく繋がることにより、活発な P T A 活動に至るという持論を主張されており、信頼関係を築く手法として「あいさつ運動」を展開され、その成功例をお伺いしました。P T A 活動として「あいさつ」を取り上げられたようですが、義務教育の課程を卒業した年齢の子供たちにとって、あいさつ程度のコミュニケーション能力は家庭内での躾があつてこそ発揮されるもので、おそらくは幼少時から保護者の方々自身が各家庭で躾けられてきた賜であると察し、あらためて家庭での躾の大切さを痛感しました。

続いて、高知県立高知東工業高等学校 P T A からの発表が行われ、P T A の取組みでは希にみる就職活動に対する支援についての取組みでした。保護者による企業訪問や進路講演会などを通じ、保護者の意識改革を図ることを目的とし、学校との協働の取組みとして生徒への模擬面接を実施されているとのことでした。高等学校卒業後の就職あるいは進学は、大きな転機の一つであり、二十歳に満たない子どもたちに立ちほだかる最大級の出来事ではなからうかと思えます。ご支援をされる P T A と学校の見事な連携にいたく感銘しました。

この他、アトラクションとして、母娘の慈愛を題材にした阿波人形浄瑠璃の公演や、ご当地徳島が世界に誇る阿波踊りのご披露などのおもてなしを受け、遠くの地で心地よい気分になることができました。

古くから、子どものことを宝に例えられてきたことは周知の事実です。子どもを授かって以来、そのことを身をもって納得することができましたが、実は子どもを育てながら自分自身も成長させてもらっていると感じています。私にとつて、子育ては喜びと反省の繰り返しです。本大会で発表されたいずれの高等学校の P T A 活動も、親御さんたちが、精力的に、意欲的に、澁刺とはたまた悩み、苦しみ、迷走しながら、子供たちの未来を確かなものにするために一所懸命にご尽力されておりました。このような機会を与えていただいた学校、P T A、そして生徒の皆さんに感謝いたします。



県立青嶺高等学校は県立美称高等学校と再編統合され
県立美称青嶺高等学校が発足すると伺っています。時々
刻々と変化する社会情勢により余儀なくされる事象に直面
するとき、我々保護者の役割は、青嶺高等学校がひとり
でも多くの子供たちの学舎となるよう地域ぐるみで支え
ることだと確信しています。「地元の高専学校」として
未永く躍進し続けていくことを願っています。

「平成二十四年度山口県公立高等学校PTA連合会総会」
参加報告

平成二十四年六月八日山口市のホテル松政において
「平成二十四年度山口県公立高等学校PTA連合会総
会」が開催されました。

総会では平成二十三年度の事業報告、収支決算等、そ
して去年設立されました全国PTA連合会大会山口大会
開催への研究討議基金の収支決算監査報告が行われ、平
成二十四年度の役員改選、事業計画、収支予算、研究討
議基金収支予算等の議案を審議しました。

総会審議の後、三地区研究協議会から新南陽高校、山
口高校、水産高校よりそれぞれの学校紹介から始まりP
TAの取組について発表がありました。

水産高校では、学校の統合によりPTA組織の編成等
の課題を抱えながら学校との連携をどのようにとるか苦
慮されているようでした。

総会後、地区会長会議が行われ、来年開催される「全
国高等学校PTA連合会大会山口大会」への取組につい
て協議され連絡協議会として七月はじめに山陽小野田市
にて協議することを決めました。

初めて高等学校のPTA活動に参加しましたが、今年
は、来年に開催されます「全国PTA連合会大会山口大
会」に向けて、よりいっそうの学校、保護者との連携が
大切であることを考えさせられた山口県公立高等学校P
TA連合会総会でした。



青嶺祭 十月六日(土)

「ご協力ありがとうございました」

前日の準備、当日本番ともに天候に恵まれ、特に、当
日は、曇天無風の絶好のバザー日和でした。恒例の「友
愛セール」、昨年に引き続きの「もちつき」、生徒会か
ら要請されていた「やきとり」を行いました。「やきとり」
は、初の試みでした。各バザーとも、十一時の開店と
もに行列ができる状態で、十四時閉店までに完売状態と
なりました。「友愛セール」は多少売れ残りが出ました
が、やきとり約一〇〇〇本、もち九〇kgが売り切れまし
た。「やきとり」は、機械科三年のバザー「やきとり」
と値段を同じにしたため(二本一〇〇円)、当初試算か
ら赤字を覚悟していましたが、一九八二円の赤字でおさ
まりました。これについては、友愛セール収益より補填
しました。各バザーの収支報告は別掲のとおりです。

両日で五〇人の保護者の方に「ご協力をいただきまし
た。当初、人手不足を懸念していましたが、当日は、多
数の方に「ご協力いただき、担当人数の割振りを調整する
必要はありませんでした。参加人数の事前把握の方法が
周知されていなかったことを、事務局として反省してい
ます。来年度は、改善したいと思えます。
今後とも「ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

おいでませ、青嶺祭!



青嶺祭 (PTA活動の部) 収支報告

<p>【友愛セール】</p> <p>収益 63,969円</p> <p>売上 66,450円</p> <p>支出 2,481円 (「やきとり」への赤字補填を含む)</p> <p>【やきとり】</p> <p>収益 -1,982円</p> <p>売上 47,800円</p> <p>支出 49,782円</p> <p>※) 赤字は「友愛セール」より補填</p>	<p>【もちつき】</p> <p>収益 45,063円</p> <p>売上 54,940円</p> <p>支出 9,877円</p> <p>※) もち米は、保護者の方から提供していただきました。</p> <p>収益は、生徒会会計に繰り入れました。</p>
--	---

大盛況のやきとり



友愛セール



もちつき

